

第 3 回経営顧問会議 議事概要（案）

1. 日 時 平成 24 年 5 月 28 日（月） 15：00～17：00

2. 場 所 富国生命ビル 23 階 共用会議室

3. 出席者

（委員） 吉川議長、石田委員、橘川委員、住田委員、田中委員、
柘植委員、細川委員、向殿委員

（機構） 鈴木理事長、辻倉副理事長、伊藤理事、上塚理事、
片山理事、南波理事、野村理事、廣井理事、横溝理事
高山監事、山根監事

4. 議 題

- (1) 開会挨拶
- (2) 第 2 回議事概要（案）確認
- (3) 福島事故に対する取り組みと今後の方針について
- (4) 原子力機構の主要事業の現状について
- (5) 機構事業の今後の進め方について
- (6) その他
- (7) 閉会挨拶

5. 配付資料

第 3 回経営顧問会議 議事次第

資料 3-1： 経営顧問会議委員

資料 3-2： 原子力機構の役員

資料 3-3： 第 2 回経営顧問会議議事概要（案）

資料 3-4： 福島事故に対する取り組みと今後の方針について

資料 3-5： 原子力機構の主要事業の現状について

6. 議事概要

(東日本大震災への原子力機構の対応状況、原子力機構の主要事業の現状と今後の取り組みについて)

- 機構は上流に大学等の基礎研究、下流に産業等の社会実装が控えた日本唯一の存在。産・学・独法の連携の設計図を示し、独法としての役割をいかに果たすかを提案すべき。また、福島でのシビアアクシデント(SA)の分析やSAが起こってから的事象研究にとどまらず、軽水炉でSAを絶対に起こさないための研究を機構が率先して取り組むべき。
- 軽水炉技術が完成されたもの(proven)とされた状況で、安全研究等をやりづらいつながりが続いたが、原点に戻って安全研究とは何かを考え直す必要がある。
- 待ったなしの福島対応に対して、機構を挙げて貢献していることに大いに敬意を表する。これまで積み上げた実績をきちんと発信すべき。
- 福島対応は長期な対応を含め、機構にとって重要な意味を持っている。技術開発も含め機構の明確なコミットが国民の信頼を得るための鍵。原子炉の安全を根本から捉え直す時期に至ったと認識。高レベル廃棄物問題の解決も迫られている。政府への協力も重要だが、中立的な立場から科学的事実を明らかにして、原子力技術を広く社会技術と捉えた対応を期待する。
- 今後の方向性はエネルギー環境会議の決議後になると思うが、政策判断を待たず、積極的に先を読んで今後の経営方向を決める姿勢を。政策によらずに絶対的に必要である事業という意味で機構から提案を。
- 米仏との比較から、原子力安全基盤機構(JNES)との関係を伺った。他の研究機関や大学等との連携も新段階に移行するのでは。機構は政府と異なり、絶対的な立場で発言できる。今後の見通しを提案すべき。
- 国際的に見て、日本が原子力を続けていくことは非常に重要であり、核不拡散の観点で海外に対する日本や機構の貢献を明徴すべき。国際的な協力の中で「もんじゅ」の幅広い活用を検討すべき。福島事故についても、機構が専門的な立場で、一般に分かりやすい説明をすることが大切。

- 福島事故では、科学者等専門家コミュニティが合意したアドバイスができなかった。社会的意思決定が困難な今こそ、社会の中の機構の意味を明確にすべき。海外には成熟した姿があり、それを参考に考えるべき。
- 非核兵器国が再処理することの意味は大きい。規制行政への機構の関与は絶対必要である。
- 時代は「日本中枢の再構築」の途上であり、最終的には合理的判断が勝つ。機構は「被規制者」だが、原子力に対しての推進派ではなく、常に中立であり続けるべき。大胆な構図の変換「ドメインの再定義」が必要である。
- 人的資源確保の中で、組織文化としての職員力の強化が重要。機構の各階層間での自由闊達な議論、意見交換が必要。
- 規制の主体と客体間での人事交流が必要だが、難しいのであれば国際機関等との間で多様なキャリアパスを形成し、遠い将来を考えながら人材育成をすべき。
- 原子力における女性の役割、とりわけ機構は女性幹部が少なく、女性の役割が重要。
- 技術者や科学者は深くものを見る違った視点を持っている。事故調査には専門家の参加が絶対必要である。本気で検討すべき。
- 科学者の役割、使命の明確な意識を。中立的専門家集団としての機構の責任を再認識し、事故の傍観者ではなく自ら任務を遂行すべき。大学等とも連携し安全研究を前面に社会に見える活動を行うなど、ポジティブな対応を期待する。

(今回欠席された委員から事前に頂いていたご意見を紹介します。)

- 誰にでも現在の福島対応状況が容易に理解できるように、機構報告会等での資料や映像を機構のホームページ等で誰でもすぐに見られるようにするべき。

以 上